

アメリカ・アラスカ州の野生動物や自然環境の保護保全並びに

漁業資源に関する海外事情調査報告書

岐阜県の内水面漁場管理施設や自然環境保全施設の参考とするため、アラスカ野生動物保護センターの視察及びアラスカ漁業の体験視察を行うとともに、在アンカレッジ領事事務所を訪問し、アラスカにおける鮭の増殖・放流に関すること、並びに野生生物や自然環境の保護保全に関する事情について聴取し意見交換を行うため視察して参りました。

8月8日

デルタ航空のコンピューターに不具合が発生しフライトができず、飛行機の中で4時間30分待たされました。フライト中止1分前にコンピューターが修復しシアトル空港に向けフライトしました。

シアトル着9：30 DL943 アンカレッジまでの所要時間3時間42分 時差17時間

シアトル着午後2時アンカレッジ行きの飛行機の便が大幅に変更されフライトが午後11時55分。シアトル空港でなんと11時間待機、外国旅行でこんなことは初めてです。視察日程も大幅に変更しなければなりません。アンカレッジ空港に着いたのは午前3時50分。この日に在アンカレッジ領事事務所へ表敬訪問し鮭増殖センターを見学する予定でしたが飛行機のトラブルで視察できませんでした。

アラスカの野生動物についての資料調査

アラスカは多様な野生動物で有名です。1,000種以上の脊椎動物が州内に生息しており、32種類の肉食動物は州内で最多を誇ります。約430種以上の鳥類や、国内で最も多い白頭ワシが生息しています。

アラスカに生息する野生動物や魚類は、おおむね良好な状態にあります。他の地域では絶滅危惧やその恐れがあると懸念されている種も、アラスカではまだ多く生息しています。アラスカ州以外の州では、400種以上の動植物が絶滅危惧やその恐れのある種としてリストに上がっていますが、アラスカでは、わずか20種が絶滅危惧、またはその恐れがあると懸念されています。



アラスカ州魚類鳥獣部によると、最も一般的な野生動物や、個体数が多いものは以下の通りです。

- ・白頭ワシ：30,000羽・アメリカグマ：100,000頭・ヒグマ：30,000頭
- ・シロクマ：約900頭・カリブー：950,000頭・ムース：175,000～200,000頭

・シロオイワヤギ：24,000～33,500頭・オオカミ：7,000～11,000頭

アラスカ州及び国内最大規模の野生動物保護区は北極野生生物国家保護区です。この区域はアラスカ州内の1,964万エーカーにおよび、魚類野生生物局が野生生物国家保護システムと共に管理されています。

北極野生生物国家保護区は行政的に区分された4つの管理地からなります。

・1980年12月、アラスカ国家利益土地保護法により、従来の890万エーカーの保護区に新たに910万エーカーが追加されました。

・野生保護区：北極野生生物国家保護区の特別提携や、1964年施行の自然保護法、及びその他の合衆国法によって、野生保護区の自然と景観を保全しています。



・自然河川：川の水質や水量を損なうことなく川遊びができるよう、保護指定されている河川です。

・1002地域：生物学、地震学、地質学に関する情報を収集し、州政府に提供するよう指定されている地域です。この地域では、包括的評価や、魚類や野生生物の評価、石油やガスの採掘や開発が与える影響などを分析する研究を行っています。

8月9日

アラスカ野生動物保護センター視察

クリズリーベアやムースなどアラスカの野生動物が保護されています。アンカレッジから車で約1時間ターナゲン湾の最深部に位置する野生動物園の保護施設。クマやムースなど、10種類以上の動物が飼育されています。ここにいるのはケガをしたり、親を失い孤児となったりした動物です。保護された動物は、ここで飼育されて



野生に戻されることはありません。実際に人間の手で育てられたり、餌を与えられたりした動物は野生への適応力を失ってしまうので、野生に戻されても生きていくのは難しいから



とのことです。その代わりに、ここで育てられた動物たちは、アラスカ野生動物を知るための生きた標本となり、また多くの学習プログラムに組み入れられ、子供たちが動物について学ぶための格好の材料を与えてくれます。視察したこの日も多くの子供たちが見学に来ていました。また動物の保護だけではなく、牛の一種であるウッドバイソンの繁殖プロジェクトをも実施しています。北米大陸には草原

バイソンと森林バイソンの2種類のバイソンが生息していますが、ウッドバイソンは100年以上前にアラスカでは絶滅してしまった動物だそうです。2005年に最初の仔牛が

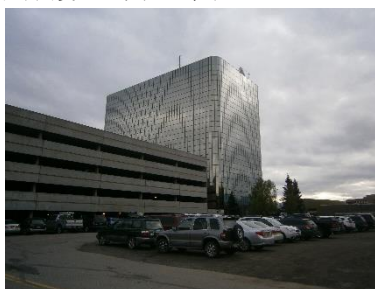
生まれ、その後順調に数を増やしているとのこと。

こうした施設ができるのも広大な敷地が確保でき、自然保護に対する国民の思いがあるからでしょう。運営費は国の補助と入場料金そしてボランティアの人からの寄付だそうです。

8月10日

在 アンカレジ領事事務所訪問

所長 伊藤 誠氏と面談。アラスカにおける鮭の増殖・放流に関する事、並びに野生生物や自然環境の保護保全に関する事情について聴取し意見交換をしました。



世界農業遺産「長良川の鮎」についてお話しすると大変関心を持たれました。



意見交換内容は次のとおりです。漁業や、内陸や沖合での水産加工といったシーフードの産業は、アラスカ経済を支える重要な産業でその利益は、2013年から2014年までで、アラスカ州を本拠地とする民間経済の20%を占め、また水産業の従事者は約41,200人であり、石油・ガス産業に続く2番目に多い民間雇用を生んでいるとのこと、アラスカ・シーフード・マーケティング協会による

と、2013年と2014年のシーフード産業の収入の平均は、全労働所得の21億ドル(2,100億円)を占め、アラスカ州の全経済活動の59億ドル(5,900億円)の36%にあたります。

サーモンとスケトウダラが、2013年から2014年の海産物水揚げの33%を占めます。その他に、カニ、タラ、オヒョウ、ギンダラ、ヒラメなどがあり、アラスカ・シーフード・マーケティング協会によると、海産物の水揚げの多い上位5つの港は、上からオランダ港、コディアック港、ナクネック港、コルドバ港、シトカ港だそうです。

サケの種類について

アラスカ近海に生息する5種類のサケは以下の通りです。
マスノスケ、シロザケ、ギンザケ、カラフトマス、紅鮭

マスノスケは5つのなかで、最大の大きさのサケです。そのほとんどが、アラスカ州全土の河川や淡水が流れ込む北極圏近くのチュクチ海岸で捕獲され、南アラスカ地域で多く見られまた、北海道でも見られるとのこと。マスノスケはアラスカ州の州魚だそうです。

シロザケは、サケの中でも広く分布しています。アラスカのほとんどのシロザケはチュクチ海東部とベーリング海峡、アラスカ湾に生息し、シロザケは通常、河口付近



に産卵しますが、遡上して産卵するものもいます。日本では、シロザケは九州の海岸近くに見られ、ギンザケは淡水に生息するのに最も適したサケです。マスノスケと同様に、チュクチ海沖に見られますが、通常、アラスカ南部に生息しています。

カラフトマスは、北米で最も小型のサケで、環太平洋地域に生息し、アラスカ海岸周辺に広く分布していて西方のシベリアで孵化し、遠くは九州南部でも見られるそうです。



紅鮭はオレゴン州からアラスカ北西部のポイント・ホープに生息していて、多くの紅鮭はアラスカ南西部のブリストル湾に注ぐ川に生息しており、北海道近辺の東アジア海岸でも見られるとのこと。

サーモンの種類と主な遡上の順番は次の通りだそうです。カッコ内は日本名です。キングサーモン（マスノスケ）・レッドサーモン（紅鮭）・ピンクサーモン（カラフトマス）・チャムサーモン（白鮭）・シルバーサーモン（銀鮭）

アラスカサーモンの孵化事業について

アラスカサーモンの孵化は州の漁業の重要な位置を占めています。州の漁業資源の増大と、豊富な天然サーモン漁業の保護に貢献しています。

サーモンの卵は、自然界で孵化するより、孵化施設で孵化させた方が、成魚になるまでの生存率が高いとのこと。

現在、アラスカには28の孵化施設があり2012年に、南部アラスカとコディアックの間の海岸線において、漁業計画のもと、孵化施設が作られ孵化事業が行われました。当時の地域別孵化施設の数は以下の通りです。

・南部東南地域 8施設・北部東南地域 9施設・プリンス・ウィリアム・サウンド地域 6施設・クック湾地域 4施設・コディアック地域 2施設



2015年には、約19億個の卵が採卵され、約17億個の仔魚が放流されその内約9,600万尾のサーモンがアラスカ孵化施設に回収され、それは2013年以来、2番目に高い回収率で、遡上したサーモンの83%がカラフトマスとのこと。

アラスカ州孵化施設の約9,300万尾のサーモンが2015年の漁業に貢献し、それは州全体の漁獲量である2億6,400万尾の3分の1にあたりまた、サーモン孵化による収益は1億2,500万ドル（125億円）に上り、それはサーモン収益全体の30%にあたるそうです。

ほとんどの孵化施設はプリンス・ウィリアム・サウンド地域に集中し、最も漁獲高の高いカラフトマスと紅鮭を孵化して2006年から2015年の間、カラフトマスは、平均して孵化生産の73%を占め、2番目に多い生産高のシロザケは、主にアラスカ南東部で水揚げされます。

孵化施設の種類について

通常、孵化施設は2つのカテゴリーに分類されます。

民間非営利孵化施設とスポーツフィッシング用孵化施設 両施設とも州法によって厳しく統制されています。

民間非営利孵化施設は、商業目的漁業、自給自足漁業、スポーツフィッシング、遊漁を円滑にするためのものです。通常、地域の養殖業者や独立非営利団体がこの民間非営利孵化施設を運営しています。

スポーツフィッシング孵化施設はスポーツフィッシングの振興のためにアラスカ魚類鳥獣部によって組織、運営されています。

孵化過程について

アラスカの孵化施設は魚を成魚になるまでは飼育しません。その代り、卵を孵化させ、仔魚（1歳）、または若魚（2～4歳）といった稚魚を放流します。漁場でサーモンを飼育する期間は、種類によって寿命が異なるため異なります。

それぞれの孵化施設は採卵、稚魚放流、現在の規模、漁場への貢献、次年度の運営規模等に関する年間報告書を作成し、提出しなければなりません。

2015年にプリンス・ウイリアム・サウンドのメイン・ベイ・孵化施設での放流により、最も多い紅鮭が遡上したそうです。

漁業と許可書について

アラスカ州の漁業は、商業的漁業、自給自足的漁業、スポーツフィッシング、遊漁の4分野に分かれています。それぞれの分野には、許可証や免許証に付随した決まりや規則があります。規則はアラスカ州の北部、内陸部、南西部、南中央部、南東部によって、それぞれ独自に定められています。

アラスカ州では通常、観光客を含む誰にでも遊漁証を発行し、アラスカ州の住民だけが、自給自足的漁業証と遊漁証を取得できます。

商業的漁業証は、魚の販売業者や水産物加工業者に発行します。

漁業料や許可料は、居住地、所得、職業などによって異なります。アラスカ州民は、観光客といった他州の者よりも、低料金で漁業証が購入できます。また、障害のある方、高齢者、低所得者、アラスカ州駐留現役軍人は漁業料の割引が適用されます。

アラスカ州民は、釣りや捕獲、わな漁の年間許可証が取得できます。

州民の年間スポーツフィッシング料は24ドル（約2,400円）です。州民は、一度に複数の許可証を購入することができます。例えば、釣りと捕獲の年間許可証は48ドル（4,800円）、釣り、捕獲、わな漁の年間許可証は62ドル（6,200円）で購入できます。全ての許可証の有効期限は購入日から1年間です。

州民でない方は、釣りと捕獲許可証の料金が割り増しになります。年間許可証と同時に、他州民の方は、1日券、3日券、7日券、14日券の許可証も購入できます。年間

スポーツフィッシングの許可料は 145 ドル (14,500 円) です。

アラスカ州での商業目的漁業は、年間を通して行われています。特にサーモンのスポーツフィッシングと遊漁のハイシーズンは5月から9月までだそうです。

現在1番多くサーモンが輸出されている国は中国、以前は日本でした。

鮭が遡上してくる河川を視察、何といたっても広大な荒野を流れる河川ですから、地上から見るのが難しいので上空からセスナ機で案内してもらいました。



2日3日前に大雨が上流で降り河川は氾濫していま

した。堤防もない河川です

から四方八方に洪水が流れており、別荘等も水につかっています。

支河川が何本かあるため、洪水に影響のなかった河川に降り船で視察してきました。

白鮭・銀鮭・紅鮭が多く遡上しておりましたが、近年外来種が多く生息しており漁師も頭を痛めておりました。これらの外来種は人間が持ち込んだもの、どの国も自然体を壊すのは人間ですね。

アラスカ州の環境保護について

州政府は、野生動物の環境保護をアラスカ州自然資源部、魚類鳥獣部、環境保全部に委ねています。

州政府は、32の狩猟保護区、生息保護区、野生動物保護区を指定しています。全てを合わせると320万エーカー以上で、これはアラスカ州全土の12%になるとのことです。

このように価値ある魚類や野生動物の保護は、アラスカの人々の経済と健全な社会作りを目的とするもので、自然資源部は、これらの保護区を管理する主たる機関です。魚類鳥獣部は、州内の魚類や野生動物の生息地の管理をし、環境保全部は水、土地、大気汚染に関する決まりや規則を施行する機関です。

内務省と農業省は州が保有する土地や河川、海洋などを管理します。主な目的は、貴重な魚類や野生動物の保全と保護です。アメリカ合衆国魚類野生生物局と海洋漁業局は、絶滅危惧、およびその恐れのある種の保護を行っています。



東日本大震災のごみ処理について

アメリカ海洋大気庁は、日本でも新聞等で報道されましたが、2011年の東日本大震災による津波で、アラスカ海岸まで流れ着いたゴミや浮遊物を清掃するために、州環境保全部と共に取り組んでおり、この清掃活動費は、日本政府の津波によるごみ清掃基金によって運営されているとのこと。自然災害とはいえ、ご迷惑をかけています。

六次産業化について

アラスカではサーモンの食品加工も行われています（写真参照）。日本の農林水産省も推奨しているところですが、第一次産業である水産漁業者が食品加工、流通、販売にも主体的に関わることにより、加工賃や流通マージンなどの今まで第二次・第三次産業の事業者が得ていた付加価値を水産漁業者が得ることによって、水産漁業を活性化し持続可能なものにしていくことは重要な視点であると考えています。



今回の視察は岐阜県の内水面漁場管理施設や自然環境保全施設の参考とするための視察でしたが、アラスカの人々の自然と共に共生する習慣がよく身につけており、またそこで生まれた文化等もよく守られ、広大な敷地の中で施設もそれなりに整備されておりました。サーモンの孵化事業で、サーモンの卵は、自然界で孵化するより、孵化施設で孵化させた方が、成魚になるまでの生存率が高いのに驚きました。